

## 早稲田大学カーボンニュートラル 2030s の実現に向けて

今日、地球温暖化に起因する気候変動は、世界中に異常気象をもたらし、生態系に深刻な影響を与えています。私達は、今、まさに地球存亡の危機に直面しています。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、2018年に、地球の温暖化を1.5°Cに抑制することによって、持続可能な開発の達成、貧困の撲滅等、様々な弊害を解決できるという可能性を示唆しております。2021年8月には、IPCC第6次報告書により「地球温暖化は人間の活動によるものである」と明確に断定しております。

日本国内では2020年10月に、菅・前総理大臣が、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。現在、政府、自治体、企業等の日本社会全体でのカーボンニュートラルに向けた取り組みが加速化している状況です。

私達も、行動を起こすべき時が来た、と考えております。

早稲田大学は広い視野からこの問題を捉え、本日、早稲田大学が目指すカーボンニュートラル実現へのビジョンをお示し致します。私たちのビジョンは、早稲田大学のキャンパスでカーボンニュートラルを実現することは勿論、それだけにとどまらず、次の取り組みを進めていく所存です。

第1に、CO2排出量を削減するための、最先端の研究開発を早稲田大学において推進して参ります。

第2に、その研究成果を早稲田大学における教育に反映させ、カーボンニュートラル・マインドを学部生に育んでもらい、大学院生には、教員が進めているカーボンニュートラルの最先端の研究を追い抜くような、より一層斬新な研究を推進できるように学習・研究環境を整えて参ります。

第3に、以上の研究面と教育面での推進と並行して、早稲田大学は、創立150周年となります2032年を目途に、各キャンパスにおけるCO2の排出量実質ゼロを実現していく所存です。

これらの取り組みにより、各キャンパスで学ぶ早稲田の学生たちは、キャンパスがカーボンニュートラル達成に向かっていくことを肌で感じ、大学がカーボンニュートラル実現への研究に貢献していることを学び、さらに教育面でも、学部を超えたカーボンニュートラルの教育を受けることによって、卒業後も日本社会ならびに人類社会全体に貢献するようになると信じております。

早稲田大学は、「カーボンニュートラルを実現する最先端研究」、「カーボンニュートラルに貢献する人材育成」、「キャンパスのカーボンニュートラル達成」という「三位一体」のバランスの取れた形でのカーボンニュートラル実現へのビジョンを持って、「Waseda Carbon Net Zero Challenge 2030s」を、本日、ここに宣言いたします。

今後の早稲田大学のカーボンニュートラル実現へのビジョンとその推進状況に、ご注目いただきたいと存じます。

2021年11月1日

早稲田大学 総長

田中 愛治